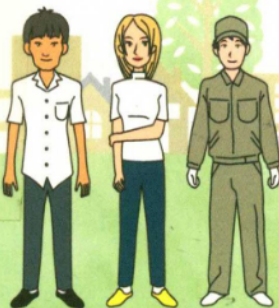


# 多文化社会で多様性を考える ワークブック



有田佳代子・志賀玲子・渋谷実希〔編著〕  
新井久容・新城直樹・山本冴里〔著〕









## はじめに

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、日本社会の多言語化が進められています。また、日本は「観光立国」を目指し、2020年には4000万人、2030年には6000万人の訪日観光客数を目標としています。そして、コンビニや飲食店などの外国人の店員さんをはじめ、学校の友人として、地域の隣人として、職場の同僚として、文化的背景が異なる人たちを身近に感じ、ともに暮らしていくことは日常になりました。

一方、こうした日本社会の国際化・多文化化の流れとは裏腹に、一見平和に見えるこの社会には、一皮めくると、民族や国籍の違う人たちに対するヘイトスピーチ・ヘイトクライムなどの現象が現われます。また、家庭の中や仲間内の軽い冗談のようなかたちで、「お茶の間での差別発言」「カジュアルなレイシズム」などと呼ばれるような現象が、不意に出現してしまうこともあります。ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とありますが、このように小さな、無意識の悪意もまた、この社会を戦争に進ませる「小さな芽」と言えるかもしれません。そしてその「芽」は、大きなものも小さなものも、日本だけでなく世界中に存在してしまうのです。

本書の執筆者は、全員が「日本語教師」であり、日本語を母語としない人たちへの日本語教育を専門の一つとしています。日本社会のマイノリティである外国人学習者と日々接していて、彼らが往々にしてもつ被差別感や疎外感が痛切に伝わってくることがあります。一方で、日本語学習者たちの中にも、民族や宗教が違う人びとに対する先入観だけでなく、障がいをもつ人、性的指向が自分とは違う人、経済的に恵まれない人などに対するあからさまな偏見があると感じる瞬間があります。

自分とは違う価値観をもつ人びとや、あまりなじみのない環境から来た人びとのことを、こわいと思ったり避けたいと思ったりするのは、本能的なことかもしれません。また、自分のいる環境にあまりにもストレスが多いとき、自分よりも立場が「弱い」人がいると思うことによって、安心したり気持ちが楽になったりするという、悲しい側面がわたしたち人間にはあるのかもしれません。だから、だれもが「差別や偏見は悪い」とわかっていながら、それがこの世界から今もなくならないのかもしれません。

しかし、だからと言って、「どこにでもあることだからしかたがない」「それが世の常だから」と、あきらめて思考停止してもいいでしょうか。たとえば、その矛先が、自分や自分の家族や身近の大切な人たちに向けられたものであったとき、「しかたがない」とあきらめることができるでしょうか。

わたしたちは、そのままではいけなそう考えました。上で見たような社会の分断と対立を、暴力ではなく「対話」によって解決していこうとする意欲と、そのために必要な最低限の知識

と、さらに多様性を受容するためのスキルトレーニングが必要だと考えました。そして、わたしたちが関係する教育の現場こそ、公正な社会を創っていく市民としてのトレーニングの場にふさわしいと考え、そうした場にしたいと願いました。

したがって本書では、さまざまなバックグラウンドをもつ人びとがすでに一緒に生きるこの社会で、以下のようなトピックについて、仲間と考えを伝え合いながら理解を深め、あらためて「多様性」について考えるワークをそろえました。

第1部は、自分の「あたりまえさ」や「常識」が、他の人びとにとってはそうではない可能性があることに気づいていく活動です。そして、それぞれの文化や価値観への寛容と同時に、「みんな違ってみんないい」という考えの落とし穴についても考えます。

第2部では、社会にある差別や偏見について、直接考えていきます。自分が標的になるまで理不尽さを認識できない無関心さを克服し、「もし自分だったら」という想像力を持ち、生活の具体的な場面での行動につなげていくことができるようなワークです。

第3部は、言語の平等性について考えます。英語をはじめとした特権的な言語が伝搬する構造を理解したうえで、すべての言語は平等だという認識について考えていきます。複雑な言語環境下で育つ子どもの言語習得、「やさしい日本語」、手話、複言語主義、方言などについて、理解を深めていきます。

そして、第4部では、あたたかい教室風土をつくり対話を促すアイスブレイクやゲーム、ワークを紹介します。使用可能なすべての方法を用いてコミュニケーションしようとする意欲とスキルを伸ばし、視線や態度を含め熱心に聞く力、相手の言語能力に合わせて自身の能力を調整できるスキルを楽しみながら身につけます。

本書は、異文化間教育や多文化共生論などの科目のテキストとして使っていただくことを目指しています。執筆者全員が日本語教育／言語教育にかかわっているので、日本語教員養成、地域日本語支援活動、あるいは英語教員を含む外国語教員養成のためのクラスでの使用も想定しています。日本語クラス(上級かと思いますが)や、中学生や高校生向けの副教材としても使えるでしょう。また、国際交流や多文化主義、複言語複文化主義に関心をもつ市民や、その研修・生涯教育を担当する方にも活用していただけたらと思います。外国籍住民とかかわる機会の多い自治体職員、外国人介護福祉士・看護師を受け入れている病院や施設の関係者、海外ルーツの子どもを受け入れている教育機関関係者の皆さんにも、使っていただけることを願います。

盛り込んだトピックは多岐にわたり、社会全体を広く鳥瞰的に理解すること、そして「ワークブック」として学習者の皆さんに主体的に考え検討し考えつづけてもらうことを、重視しました。そのことは一方で、本書で示したごく基本的な情報で、まずは関心や興味をひき、さらなる知識や情報を今後は学習者の皆さんに主体的に獲得していってもらう、その契機となることを企図しています。先生方には、Web上の「授業実践のヒント(教師用参考資料)」も合わせてご使用いただきたいと思います。

そして、強くお伝えしておきたいことは、当然のことながらわたしたち6人の執筆者全員に、それぞれの思想や価値観があり、それ自体も「うのみ」にせず議論の俎上のものとしてほしいということです。本書では、上述のとおり、学習者の皆さんに「考えて」「検討して」「考えつづけて」もらう契機になることが当面の目的です。したがって、断定的な知識の押しつけをできるだけ避け、学習者の皆さんの主体的な思考を促すような工夫をしながら執筆してきました。けれども、そこにはやはりわたしたち執筆者の思想や価値観が間違いなく反映しています。ですので、本書を使っていく中で、ご自分の体験や生活感覚の中で気づいた具体的な反論や「ちょっと違う」と思う点を、ぜひクラスの仲間とともに議論してほしいと願っています。

最後に、本書を出版するにあたって、ご助言、ご協力をいただいたすべての方に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。そして、本書を世に送り出してくださった、研究社の濱倉直子さん、津田正さんに、心からの感謝のことばを申し上げます。

2018年11月

編著者一同





# 目次

はじめに ..... iii

## 1 異なりを考える ..... 1

- 第1章 郷に入っては郷に従え? -異文化間ソーシャルスキル- ..... 2
- 第2章 心が広いってどういうこと? -寛容性- ..... 8
- 第3章 言いにくいことをどう伝える? -アサーション・トレーニング- ..... 16
- 第4章 えっ? あなたはこう思わないの? -ビジネスでの異文化接触- ..... 26
- 第5章 「〇〇人」ってだれのこと? -「日本人」・「外国人」- ..... 33
- 第6章 あなたにとっての「カミ」とは? -宗教観- ..... 41

## 2 差別とその感情を考える ..... 49

- 第7章 悪気はなかったんだけど... -マイクロ・アグレッション- ..... 50
- 第8章 今のあなたはどのような立場? -マイノリティとマジョリティ- ..... 56
- 第9章 みんなが暮らしやすく! -ユニバーサルデザイン- ..... 62
- 第10章 自分の家の近くはだめ? -沖縄- ..... 70
- 第11章 ひとくくりはあぶない! -ステレオタイプ- ..... 76
- 第12章 困って愛さなきゃいけないの? -ナショナリズム- ..... 83

## 3 言語間の平等を考える ..... 91

- 第13章 「ことばができる」ってどんなこと? -国境を越える子どもの言語習得- ..... 92
- 第14章 わかりやすく伝えよう! -やさしい日本語- ..... 100
- 第15章 にぎやかな、音を使わない言語 -手話- ..... 107
- 第16章 英語だけでいいですか? -英語一極集中の功罪- ..... 114
- 第17章 いくつもの言語とともに -複言語主義- ..... 120
- 第18章 軍隊を持つ方言って? -言語バリエーション- ..... 126

## 4

## ミニワーク -ちょっとした気づきのために- 135

1	アイスブレイク -氷を溶かそう！-	137
1-1	増える自己紹介	138
1-2	あなたはどっち派？	139
1-3	仲間を探そう	140
1-4	聞こう話そう	141
2	ダイバーシティに気づこう！	143
2-1	いろいろなあいさつ	144
2-2	プレゼントゲーム	145
2-3	わたしの大切	146
2-4	食品ピクトグラム	148
2-5	タイムゲーム	150
3	自分の価値観を客観視しよう！	151
3-1	〇〇らしさ	152
3-2	学校の先生になろう	154
3-3	代表選考委員会	156
3-4	常識ってなんだろう？	159
3-5	「中立的なことば」って何？	160
	索引	165
	編者紹介	166